

「小学生による身近な生き物調査」調査結果報告書

姫路市 環境政策室長

子どもたちが、身近な生き物の生息状況を把握し、生き物の生息環境を守り育てていくことの大切さを学習するため、「小学生による身近な生き物調査」を実施しました。今年度は、市内の小学校の協力により、校区ごとの6種類のサギの生息状況を調査しましたので、調査結果をご報告をさせていただきます。

1 調査概要

(1) 調査対象の生き物

サギ6種類

ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギ、ゴイサギ、アオサギ

(2) 調査期間

令和5年9月1日（金）～令和5年9月29日（金）

(3) 調査場所

姫路市内の全校区

(4) 調査員

市立小学校の6年生児童

(5) 調査方法

調査期間中に各小学校ごとで校区内の河川、池、水田などの水辺でサギを見つけてもらい、その種類と数を報告してもらいました。

2 令和5年度調査結果

(1) 調査結果一覧表（別紙のとおり）

各学校で何割の調査員がサギを発見したのかを調べるために、発見者数（サギを発見した調査員数）を調査員数（全児童数）で割ったものを、「発見率」として算出し、発見率が75%以上、50パーセント以上75%以下、25%以上50%以下、25%未満、0%に区分し、次のとおり表にしました。

年度	発見率	75%以上	50%以上 75%未満	25%以上 50%未満	25%未満	0%
	令和5年度		9校	22校	18校	5校
平成30年度		19校	14校	16校	6校	0校
平成25年度		15校	20校	19校	15校	8校
平成20年度		23校	19校	9校	14校	3校

今年度は、調査員の75%以上がサギを発見できた学校は、9校でした。一方で、調査員の1人も発見出来なかった学校はありませんでした。

上記の区分に従い、「ダイサギ」、「チュウサギ」、「コサギ」、「アマサギ」、「ゴイサギ」、「アオサギ」の6種類のサギごとに分類して比較しました。

種類	発見率	75%以上	50%以上 75%未満	25%以上 50%未満	25%未満	0%
	ダイサギ		3校	6校	10校	24校
チュウサギ		1校	9校	11校	17校	6校
コサギ		0校	1校	12校	33校	15校
アマサギ		0校	1校	3校	24校	26校
ゴイサギ		0校	1校	0校	30校	23校
アオサギ		2校	5校	12校	29校	15校

調査員の75%以上が発見した学校があるサギの種類は、ダイサギ、チュウサギ、アオサギの3種類でした。また50%以上75%未満の発見率の学校は、6種類すべてのサギの種類に該当しました。しかし、一番多い発見率の区分は、全ての種において25%未満でした。

次に、各学校ごとに最も多く発見されたサギ類の名前を調べました。

種類	発見率	ダイサギ	チュウサギ	コサギ	アマサギ	ゴイサギ	アオサギ
	学校で最も発見されたサギ類		15校	18校	11校	1校	0校

チュウサギを最も多く発見した学校は18校で、ダイサギを最も多く発見した学校は15校、コサギを最も多く発見した学校は11校でした。アオサギを最も多く発見した学校は9校でした。

3 令和5年度調査結果

(1) 調査結果一覧表 (別紙のとおり)

(2) 分布マップ (別紙のとおり)

4 まとめ

サギの調査は、平成20年、平成25年、平成30年に続き、4回目の調査となります。今回は6種類のサギを見分けて調査していただきました。

結果として、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギの報告数が多く、ゴイサギ、アマサギは報告数が少ない結果となりました。アマサギは夏鳥で、姫路ではあまり見かけない鳥で、実際に出会う機会は少なかったと思います。ゴイサギは他のサギ類に比べて、小型のサギで、全国的にも数が減少しているとの報告があります。姫路ではまだ見られますが、見慣れないと見つけられないのかもしれないかもしれません。一方で、シラサギとよばれる白いサギ類は、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギの総称です。特にチュウサギとダイサギは姿も大きさもよく似ています。今回の調査で、チュウサギやダイサギ、コサギの発見報告が多かったことは、白いサギが目につきやすかった上に、感覚的に大きいと感じたものをダイサギ、小さいと感じたものをコサギ、ふつうと感じたものをチュウサギと区別していたためかもしれません。これらのサギ類を正確に見極めるのは少し難しく、児童のみなさんにはイラストによる分かりやすい見分け方の資料を配布していましたが、野外で動いている鳥をすぐに見分けるのは難しいかったと思います。

児童のみなさんには、今回の調査を通してシラサギとよばれる鳥はいないということや、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギの4種類に分かれることなど、何気なく認識していた生き物をしっかり見分けてみることに意識を向けていただいたことは、生態系の中の生物多様性を知るの第一歩になったのではないかと思います。

サギ類は飛翔能力が高く、かなりの広域を移動し、田んぼや河川でよくみられる鳥です。姫路市内ではまだ全域でサギ類を見ることができ環境がありますが、実際には少しずつ水田の耕作面積が減少し、河川には真っ黒い鳥であるカワウが増え、優占種が置き換わりつつあります。

今後も姫路市の自然の移り変わりを調べるために概ね5年ごとに小学生のみなさんと一緒に調査を行い、その推移を見守ってまいります。

最後になりましたが、今回の調査にご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。